

第72回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 1998年12月18日（金）10:30～11:30

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 藤家委員長代理、依田委員、木元委員
（事務局等）科学技術庁
原子力局
今村審議官
原子力調査室 森本室長、村上、池亀、鈴木
吉鐘専門委員

4. 議 題

- （1）原子力政策円卓会議（第4回）の結果について
- （2）その他

5. 配布資料

- 資料1 原子力政策円卓会議（第4回）の結果について
- 資料2 第71回原子力委員会定例会議議事録（案）

6. 審議事項

- （1）原子力政策円卓会議（第4回）の結果について

標記の件について、事務局より資料1に基づき説明があった後、木元委員より次のとおり報告があった。

- ・ 今回の会議を総括すると、まとまりがあり、問題点が絞り込め、かつ、クールに話し合えたのは良かった。
- ・ 参加者からの代表的な意見を紹介すると、
- ・ 前回の原子力委員会の議題「省庁再編後における原子力委員会のあり方」に関連して、これまでの反省を踏まえて検討すべき。
- ・ 原子力開発利用長期計画については、民間の事業をしぼる計画ではなくビジョンを示せばいいのではないか、アジア全体を見渡して戦略的な思考ができるようにすべき。
- ・ 電力の生産地、消費地の住民の間に意識の違いがあるだけでなく、立地住民の中にも意識の違いがある。
- ・ 電源三法の立地交付金は廃止し、新たな仕組みを構築すべき。
- ・ 原子力安全委員会については、安全審査を一本化して米国のNRCのように権限を強化すべきとの意見と、安全委員会はより高い見地からのダブルチェックでよいとの意見。
- ・ 原子力委員会については、単にオーソライズするだけではなく、機能を強化

すべきとの意見と、国民から見ても何をやっているのかわからないとの意見があった。また、エネルギー全体の委員会にまとめればよいとの意見と、原子力はエネルギー以外の幅広い分野にまたがるとの意見等があった。

これに対し、

- ・委員会に権威があることは大事。権力があつた方がよいか否かは、大きい政府、小さい政府の議論であるが、全体的な視野で調整機能が期待されているのか、リーダーシップを持って進め、結果責任を負うのか、どちらの道を選ぶのか。
 - ・原子力政策を考えると、特に平和利用と放射線の発生を考慮しなければならないが、エネルギー全体の委員会ではその点への配慮が希薄になる。
 - ・原子力委員会は、2～3年前に比べれば見えるようになったと思う。
 - ・原子力委員会の構成委員について、国民が十分納得できるようにすれば、委員会に対する考え方も変わらと思う。
 - ・原子力について国民の理解を促進するためには、立地住民の方のことを分かってもらう必要がある。消費地の住民は、立地住民のことを誤解している。我が国では原子力に係る教育が遅れていることも問題。
 - ・一般国民にとって、マスメディアのどこが間違えているのかは分からない。政府は、きちんと反論すべき。マスメディアへの反論は、やり方が難しいが、まず何より広報を行う人に対する信頼関係が重要。
 - ・原子力を単に必要で良いものと広報する時代は終わった。次回見直す長計は、原子力関係者の約束事ではなく一般国民が見ても分かるようなものにしたい。現在の長計では、総論部分がビジョンで、各論では具体的な政策を書いているが、各論までビジョンにしてよいのか疑問。
 - ・現在の長計は、専門的で難しすぎる。中学生でも分かるように書き換える必要があるのではないか。
 - ・円卓会議の際、国が進めてきた新型転換炉を、突然止めたことで信頼感を失ったとの意見があった。
 - ・その件については反省すべき点がある。頻繁に情報収集をせずに、計画が進んだ段階で経済性を試算すると割に合わなかったというのが原因。
 - ・長期計画では整合性が必要であり、新型転換炉については国は着実に研究開発を進めたが、経済性の観点から、その成果を民間が上手く引き継げなかったという事情がある。計画的遂行の観点からチェックしていく機能と、民間事業を取り巻く変化との調整機能は重要。
 - ・円卓会議における他の議論としては、近藤先生から住民投票と議会制民主主義について発言があった。
 - ・省庁再編後の原子力委員会のあり方については今後も議論を続けたい。
- 等の委員の意見があった。

(2) 議事録の確認

事務局作成の資料2第71回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。